

オゾン研究連絡会の今後の活動について

オゾン研究連絡会は、オゾンをはじめとする大気微量成分に関わる研究者間の交流の場を設けることを目的に、1990年に気象学会承認の研究連絡会として発足しました。春・秋季気象学会ごとの連絡会会合を通じて活動をおこない、大気微量成分関係分野の発展に貢献してきました。このたび、本連絡会は幹事を一新するにあたって、この分野のおかれている現状を再確認し、以下のような方針で活動を続けていくことになりました。

オゾン研究連絡会の体制と方針（2001年5月8日）

(1) 役員

幹事 村田 功（東北大学）
 笠井康子（通信総合研究所）
 川上修司（宇宙開発事業団）
 河本 望（宇宙開発事業団）
 杉田考史（国立環境研究所）
 顧問 小川利紘（宇宙開発事業団）

(2) 役員任期等

幹事は4～6人程度の人数で運用する。任期は2年を目安として、必要であれば幹事の新規受け入れ・交代を行う。

(3) 活動方針

オゾン研究連絡会は、大気研究における力学と化学のさらなる相互理解を深め、今後の研究のあり方を議論する場となることを目標とする。またその活動を通して、気象学会会員の1人でも多くの方にこの相互理解の重要性に関心を持ってもらうよう努める。

背景：

例えば、今後5年を見てもEOS-Terra, ENVISAT, ADEOS-II, EOS-Aura, ISSなどの衛星から、大気科学（力学、化学、もちろん放射も）の研究に有用な膨大な量の“おもしろい”データセットが提供される予定である。これらのデータセットに期待されるサイエンスにおいて、特に力学と化学の相互理解と協力はこれまで以上に重要となることが予想される。このような状況を踏まえ、コミュニティでその受け入れ態勢を整える必要があるのではないかと考える。

(4) 活動内容

春・秋季の気象学会大会において研究連絡会会合を開催する。大会開催時以外にも、必要があれば会合を

開催する。

オゾン研究連絡会関係者の行事(会議等)のお知らせ：

- a) 会員相互の連絡（媒体：メーリングリスト）
- b) 他の気象学会会員への紹介（媒体：天気、ホームページ等）
 （例えば衛星プロジェクト関連会議等の簡単な趣旨解説等を行い、会員に興味を持ってもらうことが目的）

(5) 連絡会会合の形式・内容候補

- a) 全体で1～2時間程度の比較的長い時間を使って研究内容を紹介し、議論を通じて理解を深める。
- b) 短時間で最近のトピック（例えば参加した国際学会の内容等）のレビューを行う。
- c) 半日から1日程度で、テーマを設けたシンポジウム形式で行う。

(6) 連絡事項や決定事項の周知

オゾン研究連絡会とそれに関連した事項は、メーリングリストとホームページで周知する。

(7) 事項の決定方法

幹事から連絡会会合開催時、またはメーリングリスト・ホームページを用いて案を提示し、反対意見がなければ成立したものとする。

オゾン研究連絡会ホームページ：

<http://www.crl.go.jp/dk/c214/ozone/>

メーリングリスト：ozc-j@smiles.crl.go.jp

オゾン研究連絡会への参加は特に制限や資格はありません。興味のある方はオゾン研究連絡会メーリングリストに是非ご参加ください。なお、本メーリングリストへのお問い合わせ（加入・脱退）は

ozc-j-admin@smiles.crl.go.jp までお願いします。

OGAWA Toshihiro（宇宙開発事業団・地球観測利用研究センター）

KASAI Yasuko（通信総合研究所・SMILESグループ）

KAWAKAMI Shuji（宇宙開発事業団・地球観測利用研究センター）

KAWAMOTO Nozomi（宇宙開発事業団・地球観測利用研究センター）

SUGITA Takafumi（国立環境研究所・成層圏オゾン層変動研究プロジェクト）

MURATA Isao（東北大学大学院理学研究科）